

## 凶悪犯罪の犠牲者となる英国のセックス・ワーカー

～ 不安を抱える 7 万 9800 人の売春婦 ～

2006年12月18日(月)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

### ～ 要 旨 ～

2006年12月、英国の南東部サフォーク州イプスウィッチで、売春婦を狙った連続殺人事件が発生した。被害者はいずれも路上で売春をしていた19～29歳の女性。英国では、1888年にロンドンの東部で有名な「切り裂きジャック」事件が発生しているほか、1975年から80年にかけてもイングランド北西部のヨークシャーで売春婦などを狙った「連続切り裂き魔」事件が発生しており、先進国のなかでセックス・ワーカーが凶悪な犯罪に巻き込まれることが多い社会といえる。

英国では、イングランドでもウェールズでも売春行為そのものは合法とされている。ただし、街角での客の袖引きや新聞・電話ボックスでの広告掲載、車を走らせて売春婦に声をかける行為などは禁止されており、罰金や禁固刑の対象となる。

現在、英国ではロンドンを中心に7万9800人の女性がセックス・ワーカーとして働いていると推計されている(この数字は、少ないサンプル調査をもとに推計されたもので、実態は公表された数字ほどには多くないと考えられる)。

英国で働くセックス・ワーカーの多くは、過酷な生活環境におかれていると言われる。たとえば、Home Officeがセックス・ワーカーを対象に行ったヒアリング調査の結果によると、売春婦の74%は、生活苦が直接の動機となって売春に手を染めるようになったと回答している。英国では貧しい母子家庭への保護が十分ではなく、経済的な必要に迫られた母親がやむを得ずセックス・ワーカーになっているのだ。女性が売春婦になる典型的なパターンは、夫との離婚によって、住宅費や子供の養育費を工面しなくてはならなくなり、お金に困ってセックス・ワーカーの世界に入るというものだ。英国売春婦団体は、売春婦の7割は子持ちで、その大半は母子家庭であると推定する。

セックス・ワーカー達は、常に犯罪に巻き込まれるリスクを抱えている。たとえば、ドラッグ漬けになるリスクがある。路上で売春を行う女性は、違法ドラッグの密売人などと接触する機会が多い。実際、路上売春を行うセックス・ワーカーの多くはヘロインやクラックなどの薬物中毒になって、闇社会を潤わせていると報告されている。英国の犯罪統計によると、売春がらみの犯罪件数は近年減少傾向にある。しかし、実態としては、オモテには出てこない売春の組織化などが巧妙に進んでおり、売春の問題はむしろ深刻化していると考えられる。

各種のアンケート調査によると、英国のセックス・ワーカーの多くは、売春をやめて別の仕事につきたいと考えているが、ドラッグ依存症、過去の経歴などが障害となって、売春の世界から抜け出せずにいる。